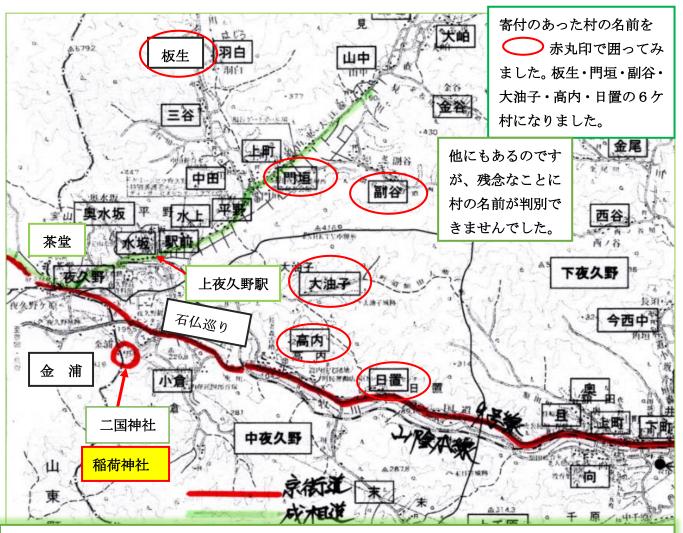
金浦瓦版

編集•発行:金浦区自治会

発行日:2023.10.5

神社遺物シリーズ 稲荷神社 7の②

稲荷神社の建立若しくは修繕にあたっては、夜久



稲荷神社の2枚の木製寄付銘板から確認出来た夜久野町内の旧村は6ケ所ですが、判読を含めると10ケ村程度に上り、何故隣接の他府県の村から寄付が寄せられたのか疑問が生じます。そこで仮説を立ててみました。①稲荷神社から2~3km歩けば京街道や茶堂の前を通る成相(なりあい)道に通じています。小倉と観光センター付近には夜久野高原88ケ所石仏巡りの82番~87番の石仏があります。二国神社の上手に江戸期の天保13年(1842年)と刻まれたお地蔵様が祀ってあります。このように人の歩く道が縦横に通っていました。ですから上記の地図の範囲では人々の往来がかなり盛んだったと思われます。②江戸時代の小倉村は二国神社の氏子でした。夜久野町は明治の一時期、金浦と同じ豊岡県に属していました。日頃から小倉地番で耕作し、共同作業を行い、豆腐を小倉の店で求めたり、酒を酌み交わす事もありました。金浦や小倉村には東源寺(大油子)の檀家が多くあります。お互いに親近感が強かったのではないでしょうか。③稲荷神社は京都伏見にある稲荷神社などに対する信仰から結ばれている講(稲荷講)ですが、稲荷と呼ばれる神社は数多くあるので、「稲荷講繋がり」やら、府県は違っても交流もある近隣地域に金浦の氏子が総出で寄付のお願いに回ったとしても何の不思議も無いと思います。寄付を受ける、行う文化は昔からあり、このような例は現代でも見られることなので、十分頷けます。寄付者の名前や金額が読み取れないのは残念ですが。信仰心があってこその所業でしょうか。